

心の拠り所 小里 文宏

困った時、いつも心の拠り所にしてきた人がいる。リコー時代の上司、川内清隆さんだ。私が20代後半でリコーの半導体事業部に転職した時、川内さんは国内外を統括する営業部長だった。猛烈に働く典型的なビジネス戦士。バイタリティーにあふれ、本当に厳しい人だった。朝礼でも部下が泣き出すほど。ある日、私が会社でたばこを吸っていると急に寄ってきて「お前は家族を愛していないのか」と一喝。たばこを吸っている場合ではない、自覚が足りないという意味だった。川内さんは自分にも厳しく、会社に全てをささげていた。朝から晩まで仕事をし、部下を細かく指導した。

「1日を一生と思え」「深刻にならずに真剣になれ」。受けた説教は数知れない。当時は精神論と思った。だが私が米国赴任した後、それは間違いだったと現場で思い知った。私が米国で半導体の会社を起業した後も「川内語録」が本当に心の拠り所となった。厳しい顧客との交渉時、もし川内さんだったらここはどうするか……。そう考えると気が楽になった。リコーから転職した川内さんに一度会いにいったことがある。新天地でも相変わらず忙しそうに部下を怒鳴っていて、私は相手にしてもらえず放っておかれた。相変わらずの企業戦士ぶり。逆に安心したものだ。（こざと・ふみひろ 〓 テックポイント最高経営責任者）